

| No. | 実施大学   | 授業科目名 | 担当教員               | 単位数 | 開講区分 | 曜日 | 予定回数 | 時間          | 実施場所   | 定員 |
|-----|--------|-------|--------------------|-----|------|----|------|-------------|--------|----|
| 49  | 東京純心大学 | 音楽療法  | 鎗木 陽子<br>看護学部 客員教授 | 1   | 前期   | 金  | 15   | 16:20～17:50 | 東京純心大学 | 5  |

#### 【到達目標】

1. 音楽が人の心とからだにもたらす働きを理解し、対象領域ごとに音楽療法の意義と内容を説明できる。
2. 人間の生活と音楽との結びつきを考察し、自らの生き方を見つめなおし、音楽はどのような存在であるかを自分の言葉で表現できる。
3. 将来就く仕事の中で音楽をどのように生かし得るかを考察し、具体的に構想し、音楽プログラムを計画し、行なうことができる。

#### 【授業の概要】

音楽療法の対象領域は、発達障害、精神疾患、高齢者、ホスピス緩和ケア、ストレスマネジメントなど多岐に及び、その実践の場は医療、福祉、教育、心理の領域にまたがる。何らかの障害や病気、問題を抱えた対象者に対して、音楽によるコミュニケーションを通じて問題の解決・改善を図っていくことが音楽療法の目的である。対象者別に音楽療法の理論を学ぶとともに、ロール・プレイや実習、グループワークも随時取り入れ、実際に「音」を通してのコミュニケーションを体験できるように授業を展開していく予定である。特に児童、高齢者、ホスピス緩和ケアの領域に重点を置き、将来、看護、福祉の領域でケアに携わりたいと考えている学生が学べるように授業を進める。音楽療法の知識を習得すると同時に、各自の人生と音楽とのかかわりについての考察を深めていく。なお授業時間内に2回の小テストを予定している。

#### 【授業内容】

1. 音楽療法の歴史と概念、定義、音楽の機能について
2. 自分と音楽との関係を知る ―好きな曲をカテゴライズしてみよう―
3. サウンド・マップを作成する
4. 癒しの楽器としてのパイプオルガン①
5. 替え歌のワーク ―《翼をください》―
6. 児童領域の音楽療法― ノードフ・ロビンズ音楽療法に学ぶ
7. 小テスト①/身近な素材で楽器を作ろう
8. 癒しの楽器としてのパイプオルガン②
9. 人生の先輩へのインタビュー（発表）
10. 高齢者領域の音楽療法
11. ワーク 「友の語りを聴く、自分自身を語る」
12. 小テスト②/ホスピス緩和ケアの音楽療法①
13. ホスピス緩和ケアの音楽療法②
14. 音楽による自分史づくり
15. 自分だけのオリジナル CD 製作構想

#### 【成績評価方法】

レポート50%、小テスト（2回）20%、毎回のリアクションペーパー20%、平常点（授業への取り組み、授業中の質問・発言等）10%。合計：100%  
レポートの採点基準は「参考文献を適切に用い、既存の学説等を踏まえたうえで自分の意見を述べているか」ということである。なお、レポート提出の際は参考文献・資料を必ず明記すること。明記しない場合は減点の対象とする。明らかにネット情報からの「コピペ」と判断されるレポート記述は採点対象から除外する。

#### 【教科書】

特に定めない。必要に応じて資料を配布する。

#### 【参考書、教材等】

宮本啓子・二俣泉編著『音楽療法を知る―その理論と技法―』杏林書院

※ この授業は、4/14（金）が初回です。